良い例：神に通じる祈り方の説明

一日に何回でも、手を合わせて真剣に下記の①と②と③の順序で祈りましょう。
（注意：この祈りは３つセットで効果があるので、ひとつだけ祈っても効果がありません。
特に病状や霊障が辛く緊急を要する場合には、先ずは②から祈り、続いて①・③と祈りましょう。
病気以外の場合には、①の部分を自分の置かれている状況に合わせて組み替えて祈りましょう。
怪我をした時は、下線部分をその下の（　）内の文章にして祈りましょう。

家族の代わりに祈る時は、〔私〕を〔家族の名前〕に入れ替えて下さい。
他人の代わりに祈る時は、〔私〕を〔他人の名前〕に入れ替えて下さい。

①『光の主神様』に対するお詫びと祈り

『大宇宙の総ての総ての創造主 大元の光の主神様』折角頂戴している大事な肉体を、私の管理不行き届きで、こんなに不具合にしてしまいまして、真に申し訳御座いません。
（私の不注意で、こんなに傷めてしまいまして、）
どうぞお許し下さい。
又こんな目に遇わなければならない私の罪穢をどうぞお許し下さい。
残る人生を、この肉体を大切に使わせて頂きまして、『真理＝神理』を世界に遍く弘めさせて戴くために、『光の主神様』の手足として、沢山にお使い賜れますよう、謹みてお願い申し上げます。

② 憑霊に対するお詫び

私に憑いていらっしゃる皆様、私及び私の先祖・家族が皆様に犯してきた罪を、どうぞお許し下さい。そのため、皆様に、長い間大変つらい思いをさせてしまいました事、心よりお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。 注１
今後、このような事を二度と犯さないようにいたします。どうかお許し下さい。
皆様が一日も早く『光の主神様』にお許し戴けて、天国で『真理＝神理』を世界に遍く弘めさせて戴くために、『光の主神様』の手足として沢山にお使い賜れる幸せな魂霊として、昇華のお許しを戴けますよう、謹みてお祈り申し上げます。

注１ 恨む切っ掛けになった事が有った時から現在までの間の事で、４００年位いが多い。

③『光の主神様』に対して憑霊の救われを祈る

『大宇宙の総ての総ての創造主 大元の光の主神様』どうぞ私に憑いていらっしゃる皆様の罪穢をお許し下さい。そして、尊いみ光と改めて幽界での修行の場をお与え下さい。そして一日も早く一刻も早く、天国で『真理＝神理』を世界に遍く弘めさせて戴くために、『光の主神様』の手足として沢山にお使い賜れる幸せな魂霊として、昇華のお許しを賜れますよう、謹みてお願い申し上げます。

例）○○教を信仰している方の場合

①　○○教のご本尊様に対するお詫びと祈り

○○教のご本尊様、折角頂戴している大事な肉体を、私の管理不行き届きで、こんなに不具合にしてしまいまして、真に申し訳御座いません。どうぞお許し下さい。　又こんな目に遇わなければならない私の罪穢をどうぞお許し下さい。

残る人生を、この肉体を大切に使わせて頂きまして、○○教のご本尊様の教えを世界に遍く弘めさせて戴くために、○○教のご本尊様の手足として、沢山にお使い賜れますよう、謹みてお願い申し上げます。

②　憑霊に対するお詫び

私に憑いていらっしゃる皆様、私及び私の先祖・家族が皆様に犯してきた罪を、どうぞお許し下さい。そのため、皆様に、長い間大変つらい思いをさせてしまいました事、心よりお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

今後、このような事を二度と犯さないようにいたします。どうかお許し下さい。

皆様が一日も早く○○教のご本尊様にお許し戴けて、天国で○○教のご本尊様の教えを世界に遍く弘めさせて戴くために、○○教のご本尊様の手足として沢山にお使い賜れる幸せな魂霊として、昇華のお許しを戴けますよう、謹みてお祈り申し上げます。

③　○○教のご本尊様に対して憑霊の救われを祈る

○○教のご本尊様、どうぞ私に憑いていらっしゃる皆様の罪穢をお許し下さい。そして、尊いみ光と改めて幽界での修行の場をお与え下さい、そして一日も早く一刻も早く、天国で○○教のご本尊様の教えを世界に遍く弘めさせて戴くために、○○教のご本尊様の手足として沢山にお使い賜れる幸せな魂霊として、昇華のお許しを賜れますよう、謹みてお願い申し上げます。

この祈り方は宗門宗派を問いません。

何の宗教を信仰している方でも、○○教のご本尊様の部分を入れ替えて祈ることができます。

○○教のご本尊様の部分を、仏教の方ならお釈迦様、大日如来様、阿弥陀様などのように入れ替えましょう。

キリスト教の方なら、イエス・キリスト様、と入れ替えて祈りましょう。

イスラム教の方なら、アッラーの神様、と入れ替えて祈りましょう。

天理教の方なら、天理王の命様、と入れ替えて祈りましょう。

自分が憶えていない前世で犯した罪も、真剣に祈れば相手の方に謝罪する事ができます。

前世の自分を恨んでいる方に対するお詫び

“私は肉体が有るので前世を思い出すことが出来ませんが、貴方が長年にわたって私を苦しめていらっしゃるのは、きっと私が前世で貴方を悔しい目に遭わせたのでしょうね。誠に申し訳ございません。どうぞお許し下さい。”と、丁寧に、何度もお詫びを申し上げましょう。

この祈りに合わせて、恨んでいる方の救われを願った喜捨を御奉納しましょう。

上記のお詫びを祈りの文に加えて、それぞれに置かれている状況に合わせて、自分に適合した祈りの文章を作成しましょう。

『神』に通じ、憑霊に通じる祈りは、文章を作るだけでも、憑霊がそれをさせまいとお邪魔をしてきます。

また、それを真剣に祈ろうとすることまでもお邪魔をしてきます。

つまり、それだけ強い効果のある祈りなのです。

お詫びの祈りによって、段々と強い恨みを持つ上層の方が出て来られるので、数回やって安心してはいけません。

一層真剣にやらなければならないのですが、『神』と憑霊に通じた祈りを、その後同じ文章で繰り返しても最初のような感覚は次第に無くなってきます。

その理由は、お詫びの祈りの対象になっている方に関しては、次第に上層の方が出てきており、今までの階層の方々に対するお詫びの祈りの文言では、次の階層の方には通じないという事なのです。 ***※恨みの霊団の説明は《４４Ｐ》***

恨みの霊との関係を会社に例えると、大会社との取引で大きなミスをして先方の社長が激怒してしまった場合、そのお詫びをする時に一般従業員の営業さんへのお詫びの仕方と、代表取締役である社長に対するお詫びの仕方は同じではありません。

社長に対しては、言葉遣い・身だしなみ・姿勢・心の持ち方等、誠心誠意を尽くすと思います。いい加減な言葉遣いだったら、取り次いで貰う事すらできないでしょう。

この例のように、お詫びの祈りが下の階層の方々に許して貰える祈りであっても、上の階層の方がそれで納得して下さるとは限らないのです。

ただし、内容が全く別物でないといけない訳ではありません。

祈りの文章に表れる言葉遣い・心遣いの違いが通じるか否かの差の一つとなるのです。

素直な感情表現の方が憑霊に届きやすく、許して頂けることが早くなります。

真剣な祈りをしていれば、“涙で顔がぐしゃぐしゃになる”のは当然の事なのです。

相手の方に申し訳ないという、真剣なお詫びをしているからこそ、申し訳なさで涙が出て、憑霊も涙を流して納得して、許してくれるのです。

このお詫びの祈りをさせていただくと、とても強いみ光に満たされ、全身が熱くなります。